2026年2月4日実施

2026年（令和8年）度
一般入学試験A日程問題
2教科方式・3教科方式

注　意　事　項

（1）試験開始の合図があるまで問題用紙を開かないでください。

（2）2教科方式・3教科方式の試験問題は共通です。

（3）試験時間は、2教科方式が60分、3教科方式が120分です。

（4）試験問題は、日本史が日1～日12ページ、世界史が世1～世11ページ、数学が数1～数9ページ、国語が国1～国26ページまであります。なお、国語は裏表紙からはじまります。

（5）試験中に問題用紙の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。

（6）**マーク解答用紙に座席番号、氏名を記入してください。なお、2教科方式・3教科方式ともに「選択科目」のマーク解答用紙の受験科目欄に、受験する科目を1つだけマークしてください。**

（7）解答は各問の指示に従って、マーク解答用紙の解答欄にマークしてください。

（8）試験終了後、問題用紙は持ち帰ってください。

国　　語

※「２教科方式」の受験者は、マーク解答用紙の受験科目欄に、受験する科目のマークを忘れずに記入してください。

一　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（50点）

かつてレヴィ＝ストロース[注1]は狂牛病（牛海綿状脳症：ＢＳＥ）について、人間が作りだした共食い（カニバリズム）の帰結として論じた。ウシの①死骸の一部を飼料に混ぜて家畜に食べさせたことがこの病の蔓延（まんえん）を招き、病んだウシの肉を食べることで人間も死の危険に晒（さら）される。彼が指摘したのは、ウシがウシを食うことだけではなく、人がウシを食べることもまた、動物同士の共食いという一種のカニバリズムにほかならないということだった。そこには「食べる」という②抜き差しならない関係を通して他の存在とつながりあい、相手の一部を自己の中に摂（と）り入れ、それによって危機的な影響を被ってしまうという、つながりと同化の負の側面が示されている。

だが、あえてカニバリズムというまでもなく、私たちは常に③そうした危うさをはらんだ自他のつながりと融合を生きているのかもしれない。無数の物質を摂りこむことで「私」が形成されると同時に、「私」から出ていく物質には私の一部が含まれている。そのようにして、私は無数の他からなるとともに、無数の他の中に拡散している。自己でもあり他でもある物質（サブスタンス）は、そうしていくつもの環世界[注2]の間をめぐり流④れる。

食べること、触れあうこと、世話すること、分かちあうこと。そうした日常的な行為を通して、私と人間ならざるものを含む他者たちの断片は延々と受け渡しされ、摂取され、放出され、拡散し、循環していく。

南アジアの村で、あるいはメラネシアの島で、人類学者たちはそうした相互浸透的で拡散的な「人」のありように出会ってきた。水や食物、血液や母乳、供物や贈り物。それらの内に含まれ、やりとりを通して人びとの間を受け渡されていくものを、人類学者は「サブスタンス＝コード」と呼んだ。それは物質としてのサブスタンスと、人のありようを方向づけ、自己と他者、人間と自然の関係を秩序づける規（のり）との一体性をあらわす概念である。人類学的な議論において、このように他者のサブスタンス＝コードを摂りこむことで生成するとともに変容し、自己の一部を放出することでつながりの中に拡散してゆくような人のあり方は、明確な境界をもち、それ以上分けられない存在としての「個人（individual）」と対比されるべき「分人（dividual person）」と呼ばれ、一部の非西洋社会

における独特な人間像を表すものとされてきた。

ア、生物学者の中屋敷均によれば、ウイルスなるものは一般に、キャプシドというタンパク質の集合体が、固有の遺伝情報からなる核酸を包みこむという基本構造をもつという。中屋敷はまた、親から子へという鉛直方向における遺伝子の伝達とは異なり、同時代に存在する他種の生物の間で遺伝子がやりとりされるという、遺伝子の「水平移行」を媒介するウイルスの働きについて述べている。イ、ある宿主の遺伝子をウイルスが運び出して別の宿主に感染することで、前者の遺伝情報が後者に移行することがありうる。

コード化された情報を内包し、宿主の間を水平方向に移動していく物質。A ただしもちろん、それは人類学者によって長らく議論されてきたサブスタンス＝コードと同じではない。人類学的な議論において、「コード」という語は符号化された情報というよりも人としての規を意味しており、ゆえに人類学的なサブスタンス＝コードの概念には、社会関係や価値観やモラルなどが含意されている。他方で、ウイルスに含まれるコードは本来的に、社会的なものでも倫理的なものでもない。

その一方で、⑤ウイルスを含む生物学的なサブスタンス＝コードの流通は、社会化されることがありうる。たとえば、あるウイルスの感染経路をたどろうとするとき、それはウイルスが伝播（でんぱ）していく宿主と宿主の関係性をたどり、明らかにしていくことにほかならない。そのつながりは次々に枝分かれし、伸展し、拡散していく。このとき、宿主である「私」の微小な断片が接触を通して社会関係の網の目の中に分散していくとともに、無数の他者たちの断片が知らぬ間に「私」の中に混入していることが、想像でも比喩でもなく、端的な事実として知らしめられる。

そうして気づかされるのは、透過的で拡散的な「分人」としての人が、遠い異文化に生きる人びとの想像の産物であるのではなく、確固たる境界をもち、これ以上分けることができない存在としての「個人」こそが、たぶん幻想なのだということだ。

サブスタンス＝コードや「分人」などの概念を提唱した人類学者たちは、南アジア社会において、危険をはらんだ「他者」との接触や物のやりとりがもたらすかもしれない影響から自分の身を守るために、人びとが編みだした

規範やふるまいの例を報告している。

相手と触れあわない、共食しない、同じ食器を使わない。あるいはまた、相手と適切な距離をとり、互いの間に一時的な境界を引く。

他者との接触は潜在的な畏れをはらみ、接触にともなうサブスタンス＝コードのやりとりには常に危険が潜んでいる。そして、そうした危険を回避するためにつながりを断ち切ろうとする方法は、いつもどこか似通っている。

遺伝情報からなる核酸を包みこんだタンパク質の集合体。そんな生物学的なサブスタンス＝コードは本来的に、人間的なものでも社会的なものでもない。［ウ］、それが社会関係を通して伝播し、拡散し、それを受け渡しする人びとの生に重大な影響を及ぼすとき、人類学者の見出（みいだ）したサブスタンス＝コードの場合と同じく、その流通を制御し、やりとりをコントロールするための方法が編みだされる。

ただし今や、そのために用いられるのは洗練されたテクノロジーだ。スマートフォンの位置情報や検索履歴の統計データを用いたクラスター発生エリアの推定、携帯電話やＩＣカードのデータを用いた感染者の移動経路の特定、スマートフォンのアプリを用いた利用者同士の接触の記録と感染者との接触の通知。

これらのことを可能にしているのは、普段はさほど意識されることもないスマートで便利な情報ネットワークだ。ウイルスという生物学的なサブスタンス＝コードの流通を把握し、制御するためにインフラ化した情報のネットワークが用いられ、それを補完するために新たな技術が開発されていく。人びとの移動経路が追跡され、互いの接触が記録され、感染の軌跡が可視化される。そうやって部分的にせよ露（あら）わにされるのは、皮肉にも「個人情報」という名で呼ばれる私たちの痕跡、私たちの断片、私たちのつながりと混交と拡散のありさまである。

たぶん⑥individual など、これまでに一度も存在したことはなかったのだ。

だが、人間によるそうした把握や制御の試みをよそに、ウイルスは人と人の間を、異なる環世界に生きる生物たちの間をめぐり流れる。そのことが可能であるのは、まずもって異なる存在である〈私-たち〉の間に、少なくとも

授受の関係が成り立つような共通項があるからだ。くわえて、ウイルスの迅速な流通と広範な拡散を可能としているのは、人間の作りだした社会的ネットワークの存在にほかならない。

だからこそいま、人間性や社会性とは本来的に無関係なサブスタンス＝コードとして、異なる存在の間をめぐり流れるウイルスの流通を見つめる視座と、そうした流通がどのようなネットワークによって媒介されており、それに対処するためにいかなる社会的・政治的な方法が編みだされ、テクノロジーとして実装され、普及することで社会の常態を変えていくのかを注視する視座の両方が必要であると思われる。生物学的なサブスタンス＝コードの流通と、社会的かつ政治的なネットワークのもつれあいを見定めるために。

レヴィ＝ストロースの論考に戻ろう。狂牛病の蔓延を、人為的に作りだされたカニバリズムの破滅的な帰結とみる⑦彼の指摘によって気づかされることは、この病は「ウシがウシを食べ、その肉を人間が食べる」という、自然状態ではありえない食物連鎖によって生じたサブスタンス＝コードの思いがけない伝播と混交の結果であるということだ。従来、そうした危険な混交を避け、サブスタンス＝コードの流通を制御する装置のひとつが、禁忌と呼ばれるものであった。自然の掟とみえるまでに根源的な禁忌が破られたとき、危険をはらんだサブスタンス＝コードは制御を超えて氾濫し、それを摂取した者を死に至らしめる。

南アジアの各地で調査を行なった人類学者たちは、サブスタンス＝コードのやりとりを通して他者と混じりあい、浸透しあうことの危険性に、人びとが非常な注意を払っていることに注目していた。それぞれの社会において、他者との接触や物のやりとりは注意深く秩序化されてきたが、それは人間同士の関係性のみならず、精霊や動物といった人間ならざる存在との関係についても当てはまる。

たとえば私の調査地である南インドの村で、人びとがやりとりに際してもっとも気を遣っていた相手は、トラやヘビといった野生動物の霊を含む神霊たちであった。神霊のもつ野生の力は人間にとって危険であると同時に、土地や村の再生産を可能にする豊饒性に満ちている。それは人びとを生かしもし、殺しもする。だから村人たちは儀礼の中で、憑坐に憑依した神霊に供物を捧げてその力を慰撫し、力の一部を受け取ったのちに、ふたたび野生の領

域に送り返す。同様に、村ではマーリと呼ばれる天然痘の女神もまた、祭祀の対象となっていた。村人たちは女神に供犠を捧げ、その恐るべき力を慰撫し、鎮めようとする。

⑧危険な「他者」に対する忌避や禁忌は、だから本来、単なる排除ではなく、相手の両義的な力を制御しつつ受け取るための方法のひとつであった。水田に引き入れる水の量を調整するように、そうした儀礼は危険で豊饒な力の流通を調整し、人間と野生との境界を引き直す作業である。それは自他の根本的な差異に基づく［ I ］な境界ではなく、むしろ、ふと気を許せば互いが混ざりあってしまうことを前提とした脆弱な境界であり、だからこそ人びとは日々相手との関係を気遣い、禁忌に従い、互いの差異を生みだしつづける。

狂牛病に関するレヴィ＝ストロースの論考が示唆していることのひとつは、人と動物、人間と自然の関係性が、人間による過剰な介入によって攪乱され、サブスタンス＝コードの流通を制御していた秩序と境界が崩壊しかけているということだ。

（石井美保「センザンコウの警告」『コロナ後の世界を生きる――私たちの提言』所収より）

※出題の都合上、一部中略した箇所がある。

注１　レヴィ＝ストロース…フランスの文化人類学者（一九〇八～二〇〇九）。

注２　環世界…生物が独自に知覚し構築する世界。

問一　傍線部①に関連して、蜂の死骸などを見つめる主人公の視点で、生と死を描いた『城の崎にて』を著した小説家を次の中から一人選びなさい。解答番号は1。（3点）

a　芥川龍之介　　b　井伏鱒二　　c　志賀直哉　　d　坪内逍遥　　e　太宰治

問二　傍線部②「抜き差しならない」の本文中の意味として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は2。（3点）

a　理解することのできない
b　避けることのできない
c　解決することのできない
d　形容することのできない
e　正視することのできない

問三　傍線部③「そうした危うさをはらんだ自他のつながりと融合を生きている」の説明として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は3。（4点）

a　自己を形成して生きていくことは、有害な影響を受ける危険性がある他者の一部を摂りこむことと、自己の一部を他者に拡散することが表裏一体であるということ。

b　生きることは、他者と自己の物質をやりとりしながら自己を形成していくことであり、自己と他者の境界があいまいになる危険性と表裏一体であるということ。

c　生きることは、自己の一部を手放して他者の一部と同化することと表裏一体であるが、同化がうまくいかなかったときに自己の一部が破壊される危険性があること。

d　自己を形成して生きていくことは、他者を摂りこみ他者に摂りこまれる過程ともいえるが、その過程はカニバリズムと同様の倫理的な問題をはらみうるということ。

e　生きることは、他者から無数の物質を摂りこみ無数の他者に自己の一部を拡散させることであるが、その過程には自己のコントロールを失う危険性が常にあるということ。

問四　傍線部④「れる」と同じ品詞・用法のものとして、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は4。（4点）

a　私は好き嫌いなく何でも食べられる。
b　事故に対する迅速な対処に迫られる。
c　在りし日の祖母の姿がしのばれる。
d　社長がわざわざ足を運ばれるそうだ。
e　話がどんどん逸(そ)れるが面白い。

問五　空白部［ア］～［ウ］には、文をつなぐ言葉が入る。その組み合わせとして、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は5。（5点）

／	ア	イ	ウ
a	むしろ	ゆえに	しかし
b	ところで	たとえば	だが
c	それでも	あるいは	ところが
d	さて	つまり	しかも
e	ときに	すなわち	だからこそ

問六　空白部 A に入る文として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は6。（4点）

a　とすればウイルスは、実質的には「サブスタンス＝コード」だとはいえないかもしれない。
b　とすればウイルスは、いわば倫理的な「サブスタンス＝コード」だといえるかもしれない。
c　とすればウイルスは、宿主だけの「サブスタンス＝コード」だといえるかもしれない。
d　とすればウイルスは、いわば文字通りの「サブスタンス＝コード」だといえるかもしれない。
e　とすればウイルスは、型通りの「サブスタンス＝コード」だとはいえないかもしれない。

問七　傍線部⑤「ウイルスを含む生物学的なサブスタンス＝コードの流通は、社会化されることがありうる」とあるが、どういうことか。その説明として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は7。（4点）

a　ウイルスなどの生物学的なサブスタンス＝コードは、その伝播・拡散の過程で人の社会的なつながりと相似的なシステムを形成することがありうるということ。
b　ウイルスなどの生物学的なサブスタンス＝コードは、人の社会的関係に影響を与え、ひいては自己と他者の境界の認識を変えていくということ。
c　ウイルスなどの生物学的なサブスタンス＝コードは本来社会性をもたないが、それらが社会的な関係を通じて伝播・拡散していくことがありうるということ。
d　ウイルスなどの生物学的なサブスタンス＝コードのやりとりがあってはじめて、人は自己と他者の社会的関係を見つめ直し、自覚できるようになるということ。
e　ウイルスなどの生物学的なサブスタンス＝コードは断片化された自己ともいえるものであり、それを流通させることで人は社会的関係を他者との間に築くということ。

問八　傍線部⑥「individual など、これまでに一度も存在したことはなかった」とあるが、なぜ筆者はそう考えるのか。その説明として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は8。（5点）

a　他者との関わりが避けられない以上、完全に秘匿できる個人情報は存在しえず、自己と他者の間には常に重なり合う部分があると考えているから。

b　人間は他者との接触を通じて相手の一部を意図せず摂りこんでいるものであり、他者との間に確固とした境界は存在しえないと考えているから。

c　他者との接触がはらむ潜在的な危険を人間社会から排除することはできないため、他者との間の境界には常に恣意的なコントロールがともなうと考えているから。

d　人間は他者と接触したりやりとりしたりすることなしには存在することができず、自己と他者を厳密に区分する境界は元々存在しないと考えているから。

e　他者との接触とやりとりなしに人間は存在しえないのにもかかわらず、人間は他者との境界をもつという幻想を捨てきれないと考えているから。

問九　傍線部⑦「彼の指摘によって気づかされること」とあるが、どのようなことに気づかされるのか。その説明として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は9。（5点）

a　カニバリズムのような根源的禁忌を破ることは、サブスタンス＝コードの暴走をまねき、大きな危険をもたらすということ。

b　人為はカニバリズムのような根源的禁忌を制御できず、人為にはサブスタンス＝コードの暴走という危険が常につきまとうということ。

c　カニバリズムのような根源的禁忌を破ることを許容する人為には、暴走するサブスタンス＝コードを制御する技術が必要だということ。

d　カニバリズムのような禁忌を破ることは、自然の根源的な部分への侵犯であり、サブスタンス＝コードの暴走によって呪われるということ。

e　人為によってカニバリズムのような禁忌を乗り越えようとする試みは、サブスタンス＝コードの暴走によって挫折する定めにあるということ。

問十　傍線部⑧「危険な『他者』に対する忌避や禁忌」の説明として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は10。（5点）

a　他者がもたらす負の影響を除き、他者と関わり合いながら他者との根本的な差異を解消していく方法。
b　危険をはらんだ他者への恐怖を制御し、他者との差異を認め合いながら関わりを維持していく方法。
c　他者の力の一部を受け取る代償を捧げることで、他者との間に秩序ある境界を維持していく方法。
d　他者がもたらす正負の影響を制御し、他者と関わり合いながら他者との差異を維持していく方法。
e　恵みと災いをともにもたらす他者との境界を確かめることで、自己の同一性を維持していく方法。

問十一　空白部 I に入る語として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は11。（3点）

a　近似的　　b　現実的　　c　絶対的　　d　相対的　　e　空想的

問十二　本文の内容として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は12。（5点）

a　禁忌と社会的ネットワークの関係を説くレヴィ＝ストロースの指摘は、テクノロジーの発達した現代でも有益であり、社会的ネットワークを維持しているサブスタンス＝コードを取り入れていく重要性が増している。

b　人類学的なサブスタンス＝コードと生物学的なサブスタンス＝コードは重なり合っている部分があり、人々は禁忌や儀礼によって他者からの危機的な影響を制御してきたが、現在その制御は困難になりつつある。

c　「分人」や「サブスタンス＝コード」という人類学的概念は、最初南アジアなどの非西洋社会の中に見出されたが、社会的ネットワークの研究を通じて西洋社会にもあてはまる普遍的な概念であることがわかってきている。

d　テクノロジーの発達により生物学的なサブスタンス＝コードの流通と拡散のスピードは上がったが、このスピードに社会的・政治的ネットワークが対応できていないことが、現代のさまざまな危険の原因になっている。

e　南インドなどでみられるように、根源的な禁忌や祭祀・儀礼は自然に対する畏怖と結びついているが、現代的なテクノロジーによるサブスタンス＝コードの制御プロセスにはこうした畏怖の念はみられなくなった。

二　次の文章と資料を読んで、後の問いに答えなさい。（40点）

ボイコットは、悪行を行った企業や組織を罰することを目標とするのに対し、①ボイコットは一般的に彼らの善行に報いるために行われる行動である。特に政治や倫理と結びつけられた消費行動において、ボイコットは購買という形を取って現れる。

これまでの研究では、政治的消費主義（political consumerism）としてバイコットとボイコットが説明されている。政治的消費主義とは、倫理的、環境的、政治的に問題があると思われる制度や市場の慣行を変えるために、市場を政治の場として利用すること、あるいは好ましい慣行に対して企業に報いることを意味する。問題がある場合にその企業の製品やサービスを拒否することがボイコットであり、逆に好ましい慣行に報いて購入することがバイコットとなる。一般的に知られてきたのはボイコットの方である。

私たちが日々の生活で製品やサービスを購入するという場合、通常は自身の利己的な効用や満足の最大化が重要になる。これに対して、バイコットの場合には、自身の問題というよりは、［　I　］性として社会や他者の問題を重視することになる。実際には程度問題となるが、より強く社会を志向する場合もあれば、もっと身近な他人のために行動するという場合もあるだろう。

これまでの②応援消費の議論と関連付けると、理論的な意味でのバイコットはより強い意味合いを有しており、一方で応援消費という場合には、より身近な行動であることが多い。さらに応援消費の中でも、震災支援や震災支援を行う企業の製品やサービスを購入するという場合にはよりバイコットらしくなり、逆に、ふるさと納税でお肉をもらうという場合や地元の行きつけの飲食店にできるだけ通うといった応援消費は、より軽めのバイコットとみなすことができる。

これまでバイコットとして紹介されてきた具体的な例をあげよう。

古く一九三〇年代のドイツのナチス党のキャンペーンでは、ユダヤ系企業ではなくドイツ系企業から購入するこ

とが奨励されていた。また戦後、一九八五年には、オーストラリアとアメリカの核廃絶運動の一環として、［A］こともある。一九九三年には、フロリダで行われたゲイの権利を守るためのキャンペーンとして、支援企業に対するバイコットが展開された。コロラドでは同様のキャンペーンのためにボイコット運動が行われていたものの、うまくいかなかったという。

また、一九九一年、テレビ番組ツインピークスの人気が落ち、テレビ局が次のシーズンを取りやめることにした際、番組のファンたちが継続運動としてバイコットを始めたとされる。結果的に番組は終わってしまったものの、人々は、口コミや電子掲示板を用い、スポンサー企業の製品を購入するなどした。このようにバイコットの範囲は広い。

これらの事例は、応援消費の文脈でも取り上げられるものだろう。例えば、アメリカで経済的制裁を受けたファーウェイ[注1]について、中国では「愛国」的な応援消費が盛り上がった。国産品を優先的に購入することは、バイコットであるとともに今日的に応援消費と呼びうる。同様に、二〇一六年九月五日の日経ＭＪでは、ＬＧＢＴ市場が紹介されているが、そこで取り上げられた「レインボー消費」は、倫理性を伴った応援消費ともいえるだろう。テレビ番組の継続運動は、ファンによる倫理性をあまり伴わない③今日的な応援消費の一つだろう。

近年では、バイコットもボイコットも生じた例としてナイキ[注2]が挙げられる。二〇一八年、ナイキはアメリカンフットボール（ＮＦＬ）のスター選手であるコリン・キャパニックを新広告キャンペーンに起用することを発表した。キャパニック選手は、二〇一六年、アフリカ系米国人に対して警察の暴力があった際、試合での国歌斉唱の際の起立を拒否し話題となっていた。このため、ナイキやキャパニック選手を支持してバイコットに向かう人々と、逆に非難してボイコットを行う人々が現れたという。なお、キャパニック選手は、二〇一六年以降、ＮＦＬの試合に出場できていない。

もう一つ、よりムーブメントに近いバイコットとしてキャロットモブ（carrotmob）がある。キャロットモブは、ソーシャルメディアを活用して気候変動問題を解決しようとしていたサンフランシスコの大学生が始めたもので

ある。

彼は、まず近所の二〇軒以上のコンビニエンスストアをまわり、エネルギー効率化に最も投資することを約束した一店舗を選んだ。そして、ソーシャルメディアを使ってこの情報を拡散し、決まった日にイベントとしてこの店に買い物に行くことを呼びかけた。この活動に賛同した多くの人々が、当日集まることになった。この活動がその後広く知られることになり、アメリカだけではなく世界に広がるとともに、フードマーケットやレストランでも同様の活動が行われるようになった。キャロットモブはその後ＮＰＯとしても活動を続けている。

一般的に、組織化された活動グループはバイコットよりもボイコットを好む傾向にあり、バイコットについての詳細はあまり議論されてこなかった。また、メディアの興味も対立が生まれるボイコットに集まりやすく、バイコットはみえにくい傾向があった。バイコットという用語自体も統一されているわけではなく、girlcott、procott、reverse boycott、anti-boycott や、あるいはブラックリストに対するホワイトリストという形で提示されてきた。

こうしたことから、バイコットがボイコットに比べて少ない理由や、バイコットの効果、そしてバイコットが実は企業が仕掛けたサクラにすぎないのではないかという指摘にどう答えるのか、といったことなど、まだまだ考察すべき論点は多い。

そもそも、バイコットとボイコットを明確に区別できるのかという議論もある。一般的に、何かの製品やサービスをボイコットすることは、代替品として何かを購入するということでもあり、逆に何かをバイコットする場合には、何かを購入しないことになるからである。このため、④研究によってはバイコットとボイコットを分けずに一つの変数として取り扱うこともある。

さらに、バイコットとボイコットを同一視するのではなく、両方行う人がいるという見方もある。［ア］、デュアルコット、デュアルコッターである。

この場合には、デュアルコットがバイコットやボイコットとどのように異なるのか、あるいは同じなのかが新しい問題となる。デュアルコッターはボイコットやバイコットだけを行う人々よりも高いレベルの政治的知識を有し、

社会的な寛容性も高いという研究もある。同様に、デュアルコッターはボイコットやバイコットだけを行う人々よりも［　I　］的であるとの見方もある。

これらの研究結果からすると、デュアルコッターは、バイコットだけボイコットだけを行う人々よりも政治的、倫理的な人々だということになる。

（水越康介『応援消費――社会を動かす力』より）

※出題の都合上、一部中略した箇所がある。

注１　ファーウェイ…中国の大手通信機器メーカー。

注２　ナイキ…アメリカの大手スポーツ用品メーカー。

問一　傍線部①「バイコット」と傍線部②「応援消費」の関係の説明として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は13。（5点）

a　応援消費はバイコットと重なる部分が多く、社会への志向の度合いが強い応援消費は相対的にバイコットに近いといえる。

b　応援消費はバイコットの一種であり、身近な他人ではなく社会を志向する点がバイコットらしさといえる。

c　応援消費の中でも社会への志向の度合いが強い部分はバイコットと重なり合っており、バイコットと同様の分類ができる。

d　バイコットは応援消費の一部であり、社会への志向の度合いが強いか弱いかによって理論的に分類することができる。

e　応援消費はバイコットの一部であるが、利己的な効用や満足の最大化との両立を諦めない点がバイコットと異なる。

問二　空白部［I］に入る語として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。なお、二つある空白部には同じ語が入る。解答番号は14。（3点）

a　冗長　　b　凡庸　　c　拡張　　d　利他　　e　互換

問三　空白部［A］に入る文として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は15。（5点）

a　核兵器を搭載した船舶の入港を拒否するニュージーランドの製品購入が奨励された

b　核兵器を搭載した船舶の入港を受け入れるニュージーランドの製品購入が奨励された

c　核兵器を搭載した船舶の入港を拒否するニュージーランド以外の国の製品購入が奨励された

d　核兵器を搭載した船舶の入港を受け入れるニュージーランドの製品廃棄が奨励された

e　核兵器を搭載した船舶の入港を拒否するニュージーランド以外の国の製品廃棄が奨励された

問四　傍線部③「今日的な」の意味として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は16。（4点）

a　一般的に知られた　　b　典型的で流行の
c　古く決まり切った　　d　前衛的で進んでいる
e　現代的で新しい

問五　傍線部④「研究によってはバイコットとボイコットを分けずに一つの変数として取り扱うこともある」とあるが、それはなぜか。その説明として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は17。（5点）

a　バイコットもボイコットも同じ問題意識によって行われる行為だから。
b　バイコットをしようとしてボイコットになる場合やその逆の場合があるから。
c　バイコットの効果とボイコットの効果を区別して計測することが困難だから。
d　バイコットの代替行為としてボイコットが行われる場合もあるから。
e　バイコットとボイコットは切り離せない表裏一体の行為だから。

問六　空白部［ア］に入る語として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は18。（3点）

a　そして　　b　しかし　　c　ただし　　d　すなわち　　e　あるいは

問七　本文の内容として、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は19。（5点）

a　バイコットやボイコットは人々の社会に対する倫理的・環境的・政治的価値観を消費行動を通じて表明する行為であるが、バイコットとボイコットのどちらの方法を選ぶかは人々の倫理性を測るための一つの指標となりうる。

b　政治的な消費行動の形態にはボイコットとバイコットという方法があり、バイコットという概念にはまだ考察すべき余地が多いもののさまざまな事例があり、ボイコットとバイコットの両方を行う人の属性についての研究も進んでいる。

c　政治手段となっている消費行動の歴史的事例を見ると、ボイコットは組織化された活動の中で活発であり、バイコットはスポーツの試合の場やソーシャルメディアなどで散発的に生まれる活動である違いがある。

d　バイコットの歴史的な変遷を見ると、戦前は政党キャンペーンや核廃絶運動などの政治色が強かったが、戦後は倫理的に好ましいテレビ番組などの娯楽や、環境的に好ましい行動をとっている企業に対する応援消費の色を強めていったことがわかる。

e　ボイコットもバイコットも政治的な消費行動であるが、ボイコットが口コミや社会的ネットワークにおいて洗練されていく中でバイコットが現れており、デュアルコッターの倫理観の高さからもその片鱗（へんりん）をうかがうことができる。

次に示すのは、前に示した文章を読んだ後に、二人の生徒と教師が、あとの**【資料１】【資料２】【資料３】**を見ながら話し合っている場面である。

教師――「消費者志向経営」とは、「企業が消費者の声を聴いて、消費者がわくわくするような商品・サービス等を提供することを通じて、地域や社会の課題解決に貢献すること」とされています。皆さんはこの言葉を聞いたことがありますか？

生徒Ａ――いいえ。具体的にはどんなことをするのでしょうか？

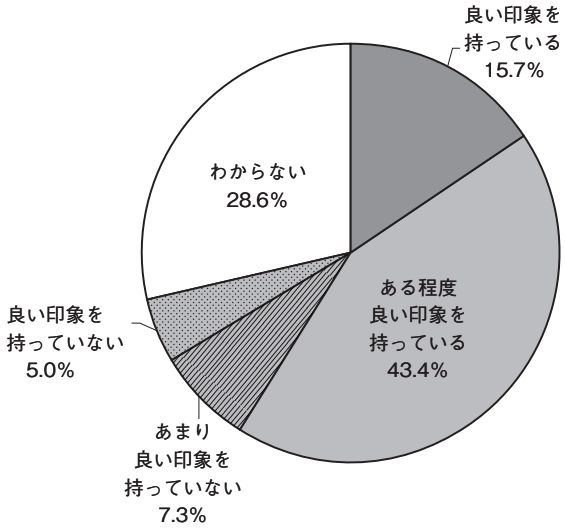
教師――たとえば、水産物の加工や販売を行っているある企業では、医療介護従事者の声を聴いて、噛む力が弱っている高齢者でも残さずに食べられる介護食を施設向けに提供しています。**【資料１】【資料２】【資料３】**はこの「消費者志向経営」についての意識調査結果の一部ですが、これを見て気づいたことを教えてください。

生徒Ｂ――**【資料１】**を見ると、「消費者志向経営」に対して「良い印象を持っている」「ある程度良い印象を持っている」と答えた、ポジティブな印象を持つ人の合計は過半数を超えるようですね。しかし、「消費者志向経営」にネガティブな印象を持っている人が一割以上いることが意外でした。「消費者志向経営」は基本的に消費者にメリットがあるものだと思いますがなぜでしょうか。

生徒Ａ――**【資料３】**を見ると、「消費者志向経営」の企業の提供するサービスが割高でも購入したいと答えた人の割合の合計は過半数を下回っています。商品の値上がりを心配している人は、「消費者志向経営」自体にもネガティブな印象があるのかもしれませんね。

生徒Ｂ――**【資料２】**からは、「消費者志向経営」に取り組んでいる企業に好印象を持っている人の多くが、環境・社会問題や将来世代に対する問題意識を持っていることが読み取れます。このことを**【資料１】【資料３】**の数値と考え合わせると、**【資料３】**の結果には［Ⅱ］が現れているともいえるかもしれません。

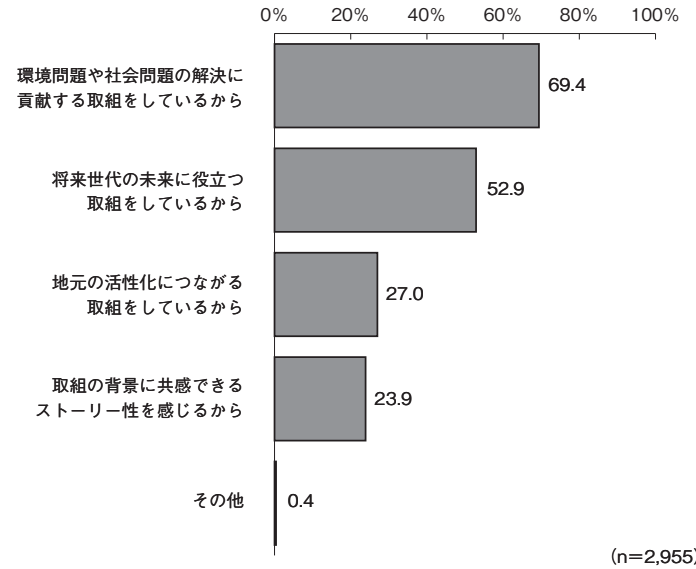
【資料１】あなたは、「消費者志向経営」に取り組んでいる企業について、良い印象をお持ちですか。（単一回答）



(n=5,000)

（消費者庁「令和６年度消費生活意識調査」より）

【資料２】あなたが、「消費者志向経営」に取り組んでいる企業について、良い印象を持っている理由は何ですか。（複数回答）

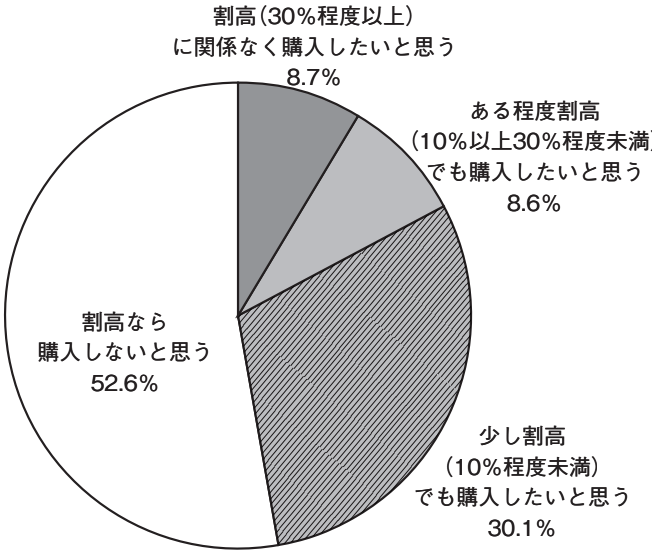


(n=2,955)

（消費者庁「令和６年度消費生活意識調査」より）

※【資料１】で「良い印象を持っている」又は「ある程度良い印象を持っている」と回答した人に質問。

【資料３】あなたは、「消費者志向経営」に取り組んでいる企業に賛同し、その商品・サービス等を選ぶ場合、他の商品・サービス等よりどの程度なら割高であっても購入したいと思いますか。（単一回答）



（n=5,000）

（消費者庁「令和６年度消費生活意識調査」より）

問八　空白部 Ⅱ にあてはまるものとして、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は20。（5点）

a　環境問題や社会問題の解決という理念に賛同する人は自己負担をほとんど抵抗なく受け入れること
b　人々は環境問題や社会問題などの解決という理念に賛同するかをコストの観点で判断していること
c　人々が関心を持っている問題の内容と許容できる自己負担の度合いには強い関連性があること
d　環境問題や社会問題などの解決という理念に賛同しても自己負担に抵抗を持つ人が一定数いること
e　環境問題や社会問題などを解決するためのコストの分担という議論には常に困難がつきまとうこと

問九　三人の会話や**【資料1】【資料2】【資料3】**の内容と一致するものとして、次の中からもっとも適切なものを選びなさい。解答番号は21。（5点）

a　生徒Aは、**【資料2】**をふまえて、「消費者志向経営」にネガティブな印象を持つ人の理由を推測して述べている。
b　生徒Bは、教師の説明をふまえて、**【資料3】**で「消費者志向経営」に対する印象が「わからない」と答えた人の理由を推測して述べている。
c　教師は生徒Aが質問の中で提示した具体例や**【資料2】**をふまえて、「消費者志向経営」とは何かを詳しく説明している。
d　**【資料2】**を見ると、地元の活性化につながる取組をしていることよりも、取組の背景に共感できるストーリー性を持たせることが、「消費者志向経営」に好印象を持ってもらうために重要だとわかる。
e　**【資料3】**から、「『消費者志向経営』に取り組んでいる企業」の商品・サービスが一〇％以上割高でも購入したい思う人の割合は一五％を超えることがわかる。

三　次の問いに答えなさい。（各2点、計10点）

問一　次の傍線部に当たる漢字と同じものを、それぞれa～dの中から一つ選びなさい。
解答番号は（1）は22、（2）は23、（3）は24。

（1）カイ物が出てくる映画を観る。
a　莫大（ばくだい）な価値のある金カイ。
b　厳しいカイ律を守って修行する。
c　カイ恨の念にかられる。
d　カイ談を聞いて震え上がる。

（2）捻挫した部位に薬をト布する。
a　ト炭の苦しみをなめる。
b　小さくト息をもらす。
c　違法なト博を取り締まる。
d　友人の前トを祝す。

（3）やっとシュウ眉をひらく。
a　反論を一シュウする。
b　シュウ得した財布を交番に届ける。
c　背中に哀シュウが漂う。
d　思わぬ逆シュウにあう。

問二　次の傍線部の漢字と同じ読みのものを、それぞれa～dの中から一つ選びなさい。
解答番号は（1）は25、（2）は26。

（1）枯淡の境地に達する。
a　営業の電話を架電する。
b　誇張なしに面白い小説。
c　害虫を駆除する。
d　すっかり音沙汰がなくなる。

（2）運動会で選手が宣誓する。
a　持病の錠剤を服用する。
b　政策を漸次周知する。
c　悲惨な事態を防ぐ。
d　人事不省から回復する。

2026年（令和８年）度　一般入学試験A日程

国語　解答例

2026年２月４日実施

一

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
c	b	a	e	b	d	c	b	a	d	c	b

二

13	14	15	16	17	18	19	20	21
a	d	a	e	e	d	b	d	e

三

22	23	24	25	26
d	a	c	b	d